

家庭教育通信

乳幼児期のこどもたち

令和6年10月1日発行

子どもの育ちで大切にしたいこと① からだの土台作り

子育て中に「こんなとき、どうしたらいいの?」「これでいいのかな?」と困った時、インターネットでさっと調べられる便利な世の中になりました。一方で「情報があふれすぎて何を選べばいいかわからない」という声もよく耳にします。

時代が変化しても、子育てで大切にしたいポイントは変わりません。特に乳幼児期は「からだとこころの土台作り」の時期といえるでしょう。土台作りは日常生活をていねいに行うことで可能になります。

今回は、「からだの土台作り」に役立つ生活の基本「くう・ねる・あそぶ」についてお話しします。

「くう」・・・食べること

毎日の食事を通じて、子どもの元気なからだや安定した生活リズムが作られます。

「空腹が満たされるのは心地いいな」「いろんな味や舌触りがあるんだな」という経験を通じて、「食べることって楽しいな」と思う心が育ちます。食欲や量は個人差がありますが、子どものペースを尊重しながら「一緒に食べるって楽しいね」という気持ちを大切に育てていきましょう。

「ねる」・・・眠ること、休むこと

人は眠っている間に、体や脳を休めて疲れをとり、元気に活動するためのパワーをたくさん貯めます。赤ちゃんの頃は短い睡眠サイクルですが、成長するにつれ「昼は活動し、夜はぐっすり眠る」というリズムが安定してきます。子どもは大人に比べ、たっぷり睡眠をとることが大切です。昼間にしっかり活動することが、よい睡眠につながります。

「あそぶ」・・・遊ぶこと、活動すること

子どもが好きな遊びをじゅうぶん行い、大人も適度に関わりながら、経験を広げてあげましょう。近所のお散歩、雨や風など自然を感じること、虫や花を見つけること、水遊びや砂遊び、かんたんなお手伝いなど、身近な生活のあらゆる行動が子どもにとっては楽しい遊びになります。

お子さんの「くう・ねる・あそぶ」は今どんな状態かな?とふりかえって、生活を整えるヒントにしてみてくださいね。

地域教育課社会教育担当
TEL (3647) 9676

家庭教育通信

乳幼児期のこどもたち

令和6年11月1日発行

子どもの育ちで大切にしたいこと② こころの土台作り

今回は、子どもの「こころの土台作り」についてお話しします。

「木が成長する姿」を想像してみてください。生まれたばかりの芽は、豊かな大地に支えられ、あたたかな太陽と適度な水を与えられることで、地中にぐんぐん根をのばし、頑丈な幹をもつ木に育ちます。

栄養をたっぷり吸収できる「根っこ」とたくましい「幹」からなる土台がしっかり育っていれば、しなやかに枝を伸ばし、葉をしげらせ、豊かな実がなるでしょう。多少の大風や寒さにも耐えることができるでしょう。

子どもの姿を木にたとえると、「大地・太陽・水」にあたるのがまわりの人々の関わりで、それによって作られるのが「こころの土台」＝「基本的信頼」です。

基本的信頼

「安心・安全」・・・まわりに自分を傷つける人やものではなく、安心してすごせる。

「守られている」・・・世話をしてくれる。助けてもらえる。なぐさめてもらえる。はげましてくれる。

「大切にされている」・・・自分はまわりの人に大切にしてもらえ、尊重してもらえる。そのことを言葉や態度でじゅうぶんに示してもらえる。

こうして人は様々な出会い・経験・困難からよいものを学び取り、好奇心をもってチャレンジし、自分らしい実りをつくっていくのだと思います。

「基本的信頼」は大人にも大切です。自分自身がじゅうぶんにこの感覚をもっていないと、人に与えるのが難しいことがあります。また、関わりが難しいお子さんの場合、「うまく接することができない」と、大人が自分を責めてしまうこともあります。

子育てで難しさを感じる時は、やさしい気持ちで自分自身にこころを向けてみてください。信頼できる身近な人に話すのもいいですね。地域の子育てひろば、子ども家庭支援センター、保健相談所などでもお話をうかがうことができます。

子育てはたくさんの人の関わりがあって成り立ちます。まわりの助けを借りながら、自分らしい子育ての形を作っていくくださいね。

地域教育課社会教育担当
TEL (3647) 9676